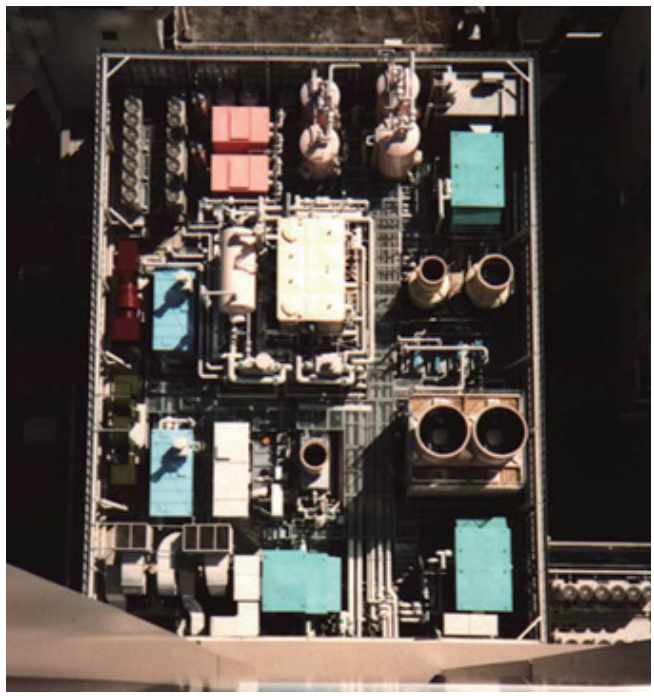
広島ワシントンホテル

1990年3月13日、広島ワシントンホテルの基本設計の第一回打合せがサンフランシスコのKMD (Kaplan Mclaughlin Diaz) 事務所で、設計責任者のMitchell Green氏 (Director International Division) を中心に行われた。ペス建築環境設計は設備設計を受託し、その年、基本設計が完了した。基本設計時に検討した課題はいくつかの新しい試みである。建物の主用途は5階までの低層階は宴会、レストラン高層階22階までは客室で構成されている。設備機器類の占める屋内の面積を出来る丈小さくするため、機械室を屋外の5階の屋上に設置する案を検討した。又熱の消費と電気需要とのエネルギーバランスを試算して、コ・ジェネレーション導入の実現の可能性を検討した。結果的に電気室以外は　設機械類は屋上設置、コ・ジェネレーションは広島ガスの運転での検証を伴うプロジェクトとして実現となった。営業利益につながらない非生産の屋内面積を小さくし, 排熱利用することで熱と電気がバランスして熱効率が上がるシステムで省エネルギーを実現した。一方、屋上設置の機器類からの騒音が近隣に影響することを解析するため、模型を作成し、成瀬治興教授の下、愛知工業大学のスーパーコンピューターで分析、評価を行った。客室から見える屋上の機器類は、アメリカエンジニアは全体を灰色に塗装することを提案したが、野澤社長の助言もあり、色付けすることに決まり、設備用途、機能に応じて、異なる色で塗り分けた。

これを客室から見て宿泊客から質問があったら、これだけの機械全てが客室の快適性、健康、安全を保証していると答えれば良いと野澤社長は語られた。

その後2006年このホテルは、ゴールドマンサックスによるオリエンタルホテル広島となり、大規模改修によりビジネスホテルからシティホテルへとグレードアップの変貌をとげた。